

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2022年度 第2号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: [kelesoffice@gmail.com](mailto:kelesoffice@gmail.com) 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2022年11月29日発行



### ご挨拶：KELES の文化継承とチャレンジ精神

関西英語教育学会幹事長 平野 亜也子（京都産業大学）

季節外れの巨大な台風や大雨などの自然災害に被災された方々およびご家族の皆様、心よりお見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルスに罹患された方々およびご家族の皆様、1日も早いご回復をお祈り申し上げます。

この度、関西英語教育学会（KELES）の事務局を担当させていただくことになりました平野でございます。私は、新型コロナウイルス感染拡大が始まった2020年からKELESの幹事会の末席に加わりました。その当時は手探りでオンラインでのセミナー運営に携わっていましたが、まさか対面でのセミナーが一度も開催されることのないまま2年もの年月が流れ、オンラインの経験のみで幹事長を拝命するとは、思ってもおりませんでした。

今ではオンラインでのコミュニケーションが当たり前に行われ、たとえばコロナ禍前には考えられなかった時間に会議が設定されることもあります。多様なコミュニケーションの形態が可能になった一方で、オンとオフの境目が曖昧になったため心身ともに疲れを感じる、という声も聞かれます。いつでもどこでも繋がれる、という便利さの裏返しなのかもしれません。

また、英語教育の現場でも大きな変化を経験してまいりました。外国語教育には欠かせない“お互いの存在を直接感じながら”のコミュニケーションにおいて、マスク着用やソーシャルディスタンスといった制約が課せられ、ジレンマやストレスを感じな

がら学習者の発話を促しているのは、私だけではないと存じます。

こんな中で、学会に求められることとは何でしょうか？私は、皆様が抱えていらっしゃる不安感や問題点についての解決策をともに考え、また成功例や失敗例などを気軽に共有できる、風通しのよい、対話が生まれる学会だと考えております。そのためには、泉会長、横川副会長、そして幹事会および理事会の先生方のお知恵を拝借し、タイムリーなテーマでセミナーを設定し、より多くの皆様にご参加・ご発表いただけるようにすること、紀要（SELT）やKELES Journalでは活発にご投稿をいただけるようにすることが重要だと存じます。

本学会では、素晴らしい先生方や仲間と出会い、多くのことを学ばせていただきました。もとより浅学非才の身ではございますが、このたびは恩返しの機会だと捉え、皆様に喜んでいただけるKELESの活動に向けて精一杯業務に取り組みさせていただく所存です。また、日本の英語教育コミュニティ全体が今後ますます発展できるように、微力ながら尽力して参りたいと考えております。

会員の皆様、何卒温かいご指導ご支援を賜りますよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。近いうちに対面開催での学会で“お互いの存在を直接感じながら”皆様にお目にかかれることを、心より楽しみにしております。

# 報告 関西英語教育学会 第54回 KELES セミナー

開催日：2022年9月24日（土） オンライン（Zoom）開催

第54回セミナーは、「主体的・対話的・深い学びを促す英語授業」をCLILの視点から考える機会となりました。第1部は、CLIL教育研究所の笹島茂先生に、CLILの総論や教育現場に必要な要素についてご講演いただきました。第2部は、甲南女子大学の中田葉月先生と四天王寺大学の柏木賀津子先生にご登壇いただき、CLILの実践例を交えながらワークショップをしていただきました。CLILの理念から実際の指導までを学び、考えることができた機会でした。お申込み・ご参加いただいた約70名の皆様に心から感謝申し上げます。

## 第54回 KELES セミナー

### 主体的・対話的・深い学びを促す英語授業 —CLILから学ぶ—

#### 第1部 講演

講師：笹島茂先生（CLIL教育研修研究所）

「主体的・対話的・深い学び」の主人公は学生であり、教師もこの点についてCLILを通して振り返る必要がある、というご指摘をされた笹島先生のお話は、CLILに関する理解を促すと共に、教師の役割とは何なのか？ということを変えて考えさせてくれる貴重な機会となった。

先生はCLILを理解するにあたり3つの重要な点1. CLILの定義、2. CLILの教育理念、3. CLILはdiversity, equity, inclusive (DEI) 促進を目指すこと、に関して議論された。

最初に、CLILは「学ぶ内容と言語の統合学習のことを表す総称的な言い方であり、コミュニケーション重視の言語指導を基盤として、認知と文化に焦点を当てる。CLILは学習状況により目標言語の学習と使用に関しては柔軟に対応し、変わる。」と定義された。Content（学習内容）とLanguage（言語）をブレンドしたら、あとは柔軟・緩やかに捉えたら良い、また教師がContentに関して知識が深くなくとも、学生だけではなく、自身も新しいことを学ぶ

機会だと前向きに捉えたら良い、と提言してくださった。このアドバイスは、CLILを取り入れることに関して不安を覚えていた私に安心感を与えてくれたのと同時に、「学生に知識を与えるのが教師の役割である」というマインドセットを変える必要があることを気づかせてくれた。

次に、CLILは指導法（methodology）ではなく、教科科目の内容・テーマと言語を統合する学習という教育理念（pedagogical principles）のもとに実施される教育の総体（entity）である、とご説明された。そして理念の一つとして、学生に互いの文化を理解する場を提供することが大切であるとおっしゃった。学生に深い学びを促すことを目的として、ただ単にタスクを与えたり文化とは何かと一方的に教えるのではなく、学習の目的や意義について考えさせたり、学生と対話を行うことが必要であると強調された。

最後に、CLILは多様性や公平性、包括性（DEI）な教育を提供することを目指すことが大切であると説明された。先生は、日本の多くの教育現場ではこの3点が重視・実践されていないことをご指摘された上で、教師が学生の学びをコントロールするのではなく、学生に主体性を与えて、DEIを尊重する学習環境作りを行うことを推奨された。

CLILを授業に取り入れてみたいが、どのように取り入れればわからない場合は、教師も学生と一緒に学ぶという姿勢でやってみたら良いのである、そして失敗しても再びチャレンジすべきである、と笹島先生は励ましてくださった。先生からのエールは、教育の質を上げようと日々努力されている先生方の心に強く響いたのではないだろうか。

笹島先生がご退職後もなおCLILを啓発する活動（NPO法人：CLIL-ite）を精力的に行なっているお姿、さらに学生との関わり方に関して生き生きとお話しされている様子を見ながら、これが教育者が学び続ける姿勢なのだ、ということを確認した。また、明日から学生と真摯に向き合う勇気とパワーを頂けたのは私だけではなかっただろうと強く思う。

報告者：浅羽 真由美（京都産業大学）

## 第2部 ワークショップ

### 「思考の深化を促す CLIL 授業—ICT を活用して—」

講師：中田葉月先生（甲南女子大学）

様々な校種での指導経験のある中田先生からは、ICT を活用した CLIL 授業実施のヒントとなるワークショップがなされた。CLIL では、4 つの C (Content, Communication, Cognition, Community / Culture) を念頭に置いて授業や活動を考えることが一般的であると思われるが、その中でも中田先生は特に Cognition (思考) を大切にした授業づくりを行っているとのことだった。とりわけ、高次思考である分析 (分類・比較・関連付け) を行うようなタスクを授業に入れ込んでおり、また、基本的に日本語ですでに学んでいることを英語の授業に活用しているとご説明された。

実際の授業の様子を映したビデオや写真等を通して、中田先生の CLIL 授業の実践について理解した後、私たちはワークショップに参加した。防災をテーマとしたワークショップでは、ある家族構成を想定した場合、どのようなものを emergency bag に入れる必要があるのかをグループ内で議論した。具体的には、必要な物 (need) を 3 つ程度、あればよい物 (want) を 8 つ程度選び、want については選んだ物の必要の度合いが高ければ、その程度に応じて、物を表すカードを need に近い位置に配置するといったことを行った。その際、コンセンサスを得るためにグループ内で自然に議論が発生したが、小学生も同様に活発な意見交流がなされることが想像できた。また、忍者の修行を考えるというタスクについて学ぶことができた。忍者の動き (run, hop, sit down, turn around など) をどのような順番にすればよい修行となるのかを議論し、カードを並べかえるという活動であった。実際の授業では、グループで考えたものを忍者の修行としてやってみるといったところまで行うということだった。

ワークショップでのタスクに取り組む中で、まさに高次思考を促す仕組みがあることを、身をもって感じることができた。他にも、アプリを活用した実践例を紹介され、思考や発話を促す具体的な手立てを知ることができた。多くの実践例を体験的に学ぶことで、CLIL についてさらに関心が高まり、CLIL 授業にもっと挑戦していこうと感じた。

報告者：篠崎 文哉 (大阪教育大学)

### 「CLIL×SDGs をトピックにして—グローバル視野を取り入れた大学でのワークショップ実践—」

講師：柏木賀津子先生（四天王寺大学）

柏木先生には、CLIL 及び SDGs を中心としたお話をいただいた。柏木先生のお話の中には、学生の 21 世紀型スキルの育成や他教科の教員との協働授業など現在の小中高等学校の教育にも今後アプライしていく上でとても重要な視点が登場した。また、柏木先生が大学で実践してきた Focus on Form (FonF) や Dictogloss などを用いた授業内容をご紹介いただいた。

柏木先生の実践の中で、美術教師との協働授業から CLIL を考えるという部分が現在の教育的視点としてはとても重要であると感じた。英語教師だけで授業を行うのではなく、さまざまな分野の専門の先生と協働して授業を作っていくという考え方は今後の日本の英語教育においても重要な視点であると個人的には考えている。英語教師は、英語を教える専門家ではあるが他の教科に関して言えば、それほど多くの知識や技能を備えている訳ではない。よって、英語と他教科の連携にとって専門の教員との協働は理にかなっていると考える。

さらに、柏木先生は、CLIL と SDGs の実践の中で、インプットの量と質の重要性について指摘された。特に、TED を用いた多聴と精聴という実践の部分及びプレゼンのコツの部分は非常に興味深いと感じる部分であった。多読・多聴を通して質の高いインプットを大量に与える (= 学生が得る) ことは、アウトプットの促進にとって、有益であると考えられる。教師が工夫を凝らして、良質なインプットを多く与えることの重要性を再認識できた。

まとめると、今回の柏木先生のお話を聞いて私が考えたことは、学生の 21 世紀型のスキルの育成を目指すために、我々教員もさまざまな教材教具・指導法などを学んでいかなければならないということである。(大学) 教員がさまざまな教材教具に興味を持って、教材を考えていくことが重要だと再認識した。また、他教科の専門教員との協働に関しても、大学教員間の協働を考える良いきっかけとなった。CLIL や SDGs を起点として、さまざまな英語教育に目を配らせ、今後の大学英語教育の改善に努めていきたいと考える良い機会となった。

報告者：染谷 藤重 (京都教育大学)

## 関西英語教育学会 今後の行事のご案内

関西英語教育学会では、下記の行事の開催を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 第56回 KELES セミナーのお知らせ

日時：2022年12月18日（日）13:00-16:00  
形態：オンライン  
資料代：会員 無料、非会員 1,000円  
テーマ：高校英語『論理・表現』をどう指導し、  
どう評価するか  
講師・講演タイトル：  
横川 博一先生（神戸大学）  
「高校英語『論理・表現』で育てたい力  
—教科書をどう使うか」  
溝畑保之先生（常翔学園中学校高等学校 教諭）  
「『テーマ作文』、『スピーキングテスト』、  
『定期考査』をつなげて生徒の『自律性』を  
伸ばそう」

詳細が決まり次第、KELES ウェブサイトにてお知らせいたします。なお、ご参加には事前の申し込みが必要です。

### 第26回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

日時：2023年2月12日（日）9:30-17:30  
形態：オンライン  
参加費：会員・非会員とも無料  
発表申し込み〆切：2023年1月20日（金）  
当日はスペシャル・トーク講師に竹内 理先生（関西大学）をお迎えして、ご講演いただきます。卒業論文・修士論文を完成させた暁には、ぜひこちらでご発表していただき、将来の英語教育をともに考える同志たちとの語らいの場としていただけたらと思っております。学生の研究指導をご担当の先生方におかれましては、ぜひ発表をお奨めいただけましたら幸いです。

なお、本セミナーでのご発表は学会発表としてカウントされませんので、他学会でご発表済み、またはご発表予定のご研究についても、奮ってご発表ください。

発表者はKELESの会員である必要はありません。詳細は同封のフライヤー・KELES ウェブサイトをご覧ください。

## 学会事務局からのお願いとお知らせ

### メールアドレスのご確認お願い

このニューズレターは、PDF化して会員様宛に一斉メール配信をしております。もしもこのニューズレターがメールで届いていない場合は、迷惑メールに入っていないかどうかご確認ください。迷惑メールにも入っていない場合は、お手数ですが [kelesoffice@gmail.com](mailto:kelesoffice@gmail.com) まで、改めてメールアドレスをお知らせください。また、その際にはお名前、ご所属先も必ず記載していただきますよう、お願いいたします。

### お知らせ

9月24日に開催しました第54回セミナーについては、当日の動画を会員限定で2023年1月末まで公開させていただくこととなりました。KELES ウェブサイトからセミナーのページへ入っていただき、下記パスワードをご入力ください。（パスワードの会員以外の方への共有はお控えください）



パスワードは会員に紙媒体で配布済み